

はじめに

瀬戸内圏は古くから海上交通の要衝の地であり、日本文化の源ともいえ、ヨーロッパ文明が地中海から広がったのと類似しています。香川大学はこうした瀬戸内圏の中核都市として発展してきた四国の高松にあって、地域の「知の総合拠点」の形成を使命としています。本学では古くから、瀬戸内海の赤潮研究、ため池の研究、産業廃棄物対策、遠隔診断などの優れた研究が続けられてきました。そこで、瀬戸内圏の諸課題を解決するべく調査研究を行うとともに、地域の財産である瀬戸内圏が育んできたその風土や豊かな環境を保全し、継承させ、発展させるため、平成21年3月1日に「瀬戸内圏研究センター」が設立されました。

瀬戸内圏研究センターの英語名称は「Seto Inland Sea Regional Research Center」です。Regional は圏域を意味し、当面は「播磨灘と備讃瀬戸周辺の海域、島嶼および陸上のあらゆる場所」を圏域とした研究を行います。将来は瀬戸内に関係する研究機関等と連携した、瀬戸内海全体を網羅した活動も視野に入れています。

瀬戸内圏研究センターは学長戦略調整費による「瀬戸内圏研究プロジェクト」の研究推進支援、行政や企業等との協議会および活動団体や地域住民等の意見からの新たな課題の発掘、それらを反映させるための施策の検討、セミナーやシンポジウム等の開催、研究成果の公開、行政や企業等との受託研究や共同研究の推進、瀬戸内圏研究に関する情報の収集とデータベース化ならびにそれらの発信を主要な役割としています。本報告書では2年間の成果について、報告致します。

なお、今回の報告書には学術講演会での話を掲載させていただきました。掲載に御快諾をいただき、かつ文章の校正に御尽力をいただきました3名の講師の先生方に厚く御礼申し上げます。

今後とも瀬戸内圏研究センターへの暖かい御支援をよろしくお願い致します。

瀬戸内圏研究センター長
本城 凡夫